

## 正副議長就任記者会見 会見録（概要）

日 時：令和6年5月16日 14時20分～

場 所：議事堂6階 602会議室

（質問）議長と副議長から就任の意気込みをお願いします。

（議長）皆さん、こんにちは。本日、本会議におきまして、三重県議会の第114代の議長に就任することになりました、稲垣昭義でございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。就任の意気込みということですが、所信表明のときに3点申し上げまして、1つが議会改革のさらなる推進と交流連携の強化ということをお願いしました。そして2つ目に若者の政治参画、主権者教育の推進、そして3つ目に海外に目を向け、海外との交流の推進ということで3点申し上げましたので、そのことを聞いていただいて、各議員の方からも賛同いただいたというふうに思っております。その所信で掲げました3点について、しっかり取り組んでいきたいというふうに思っています。加えて、三重県議会は、やはり歴史と伝統のある議会でありますし、全国に先駆けて議会改革を推進してきた、先導的にやってきた議会でありますので、その諸先輩方がつくってきた、この三重県議会の歴史というものをしっかりと引き継いで、そしてまたそれに恥じないように、しっかり行動していきたいというふうに思っております。以上でございます。

（質問）ありがとうございました。副議長、お願いします。

（副議長）このたび第118代副議長に就任させていただきました、小林正人でございます。どうぞよろしくお願いいたします。私も先日の所信表明でも少し述べさせていただきましたが、まず二元代表制の下、その一翼を担う議会として、知事等とは緊張ある関係を保ちながら、監視及び評価、そういったものを行い、また政策立案、提言を行う、そんな実効性のある議会を先導される稲垣議長をしっかりとサポートさせていただきながら、職務に専念をさせていただきたいと、そんなふうに思います。また、広聴広報の座長も務めさせていただくこととなりますので、これまでも時の副議長、あるいは広聴広報会議の皆さんで取り組んできていただきました、県議会だよりやテレビ、あるいはインターネット中継、SNS等の活用、さらなる推進や、今年度開催予定の高校生県議会を通じて、とりわけ若い方々のいろいろな思い、考えを反映させる手法等もさらに検討をさせていただければと、そんなふうに思います。いずれにいたしましても議長を中心に、県政を取り巻くさまざまな課題、山積しておりますので県民の皆さまのご期待を裏切ることなく、全力で取り組ませていただきたいと思います。以上です。

（質問）ありがとうございます。所信表明のときに3点取り組みたいことをおっしゃられたと思うのですが、出ていない方もいらっしゃるのでは、改めて具体的にどういうふうなことをするかというところを少し触れながら、留め直していただけるとありがたいです。

(議長) 分かりました。議会改革のさらなる推進と交流連携ということで申し上げたんですけれども、お手元に持ってみえるかどうか、多様な人材が輝く議会のための17の提言ということで、これは中森前議長も言われていましたが、全国議長会の中で中森前議長が提案をして、杉本前副議長が委員として取りまとめていただいたものです。読ませていただくとすごくいいことが書いてあって、やっぱりこれを率先して三重県議会が、もちろん全国議長会では7月の総会で具体的にどうしていくかということが決まってくるようなんですけれども、改革をずっと先導的にやってきた県議会として、率先してこの項目について取り組んでいきたいなということを思っています。加えてこの中にもあるんですけれども、やっぱり議員同士の交流というか、情報交換、共有の場というのは非常に大事だということも書かれておまして、これまで三重県議会は、議会改革のシンポジウムだとか、さまざまな全国の自治体に向けて三重県議会の取り組みを発信して、そしてまた情報共有をしてきたという経緯もありますので、そういった取り組みをどういう形で進めるのかはまた皆さんとご相談ですけれども、やはり議会として発信できるようにしていきたいなというふうに思っています。若者の政治参画、そして主権者教育の推進については、先ほど小林副議長からもお話がありましたように今年は高校生県議会もやるということですので、高校生たちが参加して、自分たちの施策が、思いが、具体的に形として現れるということを感じてもらうことは非常に大事だと思っておりますので、そういった仕組みを何か考えられないかとか、あるいはそうは言ってもそこに参加いただけない方、若者、たくさんいますので、そういう方たちにどのように県議会というものを、何をやっているところだということをお届けしていくか、そんなことも模索していきたいなというふうに思っています。3点目の海外に目を向けて海外との交流の推進ということについては、三重県議会は議連も5つの部会があるのと、台湾あるいはベトナムという議連も、それ以外にもできています。それぞれの取り組みを、議連によっては熱心に交流をしていろいろな成果をこれまで出してきた議連もあるんですが、特段何も動きがない議連もあります。今の時代はやはり、所信の時も申し上げましたけども、日本人もどんどん減ってきますし、人口減少の時代にあってどうこの国の経済を維持していくか、この地域のコミュニティーを守っていくかということについて非常に大きな課題があるというふうに思っています、そのためには、外国人の方の力を借りるとか、一緒にやっていくということも大事だなというふうに思っています。インバウンドでも海外からいかに呼び込むかということもありますし、あるいは地域の労働力というか人材、働く人の中に外国人労働者の方に入ってもらおうとか、いろいろなことも今、三重県にとっても必要なことになっていきますので、そういう時代にあって県議会、内向きではいけないと思っております、できるだけ外との交流、そしてネットワークを作るということ、議会としても積極的にできたらなということをおもっています。その3点を申し上げさせていただきました。

(質問) その3番目の海外との交流で、2名ばかり議員の方から質問が出てその時に、そうなるかと政務活動費で使うにしても増えるんじゃないか、それについて明確にあまりお答えになっている感じはしなかったんですけど。具体的には海外との交流と言っても、今すでにだいたいアジアじゃないですか。それを欧米まで広げるという意味ですか。

(議長) 今の国際議員連盟の中には、スペインとの部会もありますので、今までの議員連盟の活動は特にアジアに固定しているわけじゃなくて、スペイン部会もあります。ですので、欧米まで広げるというより、今でもそういう議員連盟はあるということですが、あの質問のときに申し上げたんですけど、確かにお金がいくらでもあるわけではないので当然範囲とかお金の限界というのはあります。ですけれども、基本的に海外との人材交流、そういったことが大事なんだという前提の上で取り組みを進めていくということが大事だと思っていまして、ともすると海外いろんな不祥事等々も過去にあったというふうに私も思っていますし、三重県議会じゃなくて他の議会とかで批判をされているようなこともあるというふうに思っています。ああいうのが出てくると内向きになりがちで、行かないことの方がいいかのような感じになると思うんですけども、そういうふうになってはいけなと思っています、人材交流とか積極的にやることは大事だと、ただそれには当然今ご指摘いただいたように、予算の範囲もあるということですので、これまでの政務活動費だとか、さまざまな議会の調査費だとか、そういった範囲を大幅に超えてやっていくものでもないというふうに思っています。

(質問) 必ずしも団を組んで多数行くことでお金かかると、そこに私はあんまりくみしない。何でかって言ったら去年ブラジル行ったのを見ている、ある程度のボリュームゾーンで行った方が例えば大統領に会えたりとか、向こうの対応も違うじゃないですか。ある程度のボリュームゾーンが必要だと思うんで。質問された方は2、3人で行ったらどうかとおっしゃったけど、そういうもんでもないと思うからそこはいいんだけど、たださっきおっしゃったようにスペインはあるけども、後の、例えば和歌山県だったらフランス人のインバウンドがあるんで高野山への、割とそこへの交流とかされたりすることあるじゃないですか。そこまで広げる感じはあるんですか。要はスペインと今ある議連以外のところにも、ある程度広げていきたいということですか。

(議長) もちろんあり得るとは思っています。ただ、別に広げることが目的ではないので、例えばどこかの国と何らかの繋がりがあるとか、どこかの国と何かプロジェクトが動き出しそうだとか。そういったものがあつたときに積極的に議会もコミットしていくということかなと思っています、広げることは別に目的ではないと。そういうのがあつたときには、別に今の議連だけに限らず、例えば新しい議連がまたできてもいいわけですし、実際、三重県議会の中にも当初5つの部会だけでしたけれども、台湾の議連、あるいはベトナムの議連というのがその後できているわけでありまして、例えば台湾は毎年のように交流して非常に効果がある、成果も上がっていると思っていますので、そういった目的、プロジェクトがあるときには、当然広げていくことも大事なと思っています。

(質問) 少数会派の取り扱いで、かつてやっていたような懇親というかそういうものが必要ならばやるとおっしゃったんですけど、これ、やる、やらないという判断は、皆さんの意見聞いてと言ってたんですけど、代表者等諮ってやるときはその判断をするという意味で捉えていいですか。

(議長) やるとなれば当然、代表者会議に諮らなければいけないと思っていますけれども、まずはその少数会派の方が、前、私が副議長をやらせてもらった時は確かそういうのがあったんですけども、今は少数会派を代表して1つの会派、草莽さんが代表者会議に入っているんで、そういう場はあえて作ってないというふうになっているという話を私も聞きまして、そういう経緯があるんだなということを理解した上で、ただそうは言っても少数会派の方から、そういう場はやっぱり欲しいんだということが皆さんから出てくれば、他の代表者の皆さんにお諮りする形になるのかなというふうに思います。

(質問) 出てきて検討するということであって、新議長として、私はそこは少数会派と積極的に取り組みたいとか、そういう今お考えではないってことですね。

(議長) 積極的に私がというよりも、おそらく前中森議長も、少数会派の方の意見も結構積極的に聞かれていたと思っていますし、その場にこだわらないというか、あるいは少数会派の方が場にこだわられるのであれば、それは作っても当然必要だと思うんですけど、今まででも少数会派の方の声もしっかり、別に議長室に言いに来ていただいて、聞いておられたと思いますので、私もそういう姿勢ではありますので、これからもずっと聞かせていただくつもりは持っています。ただ、そういう場は要りますよということであればそれはそれで、先ほど申し上げましたように代表者会議で諮らせていただくかなというふうに思っています。

(質問) 今日の役選ですけど、結果2票は他の方の名前が出て、あと2票は無効票で、これは白票なのか、誰か他の人の場内にいない人の名前書いたのか、そこは分からないんですけど、この結果について議長はどう思われますか。

(議長) 多くの方に名前書いていただいたというふうに思っておりまして、これだけ48人の議員のうち、43票でしたかね、多くの方に書いていただきましたので、本当にありがたいなというふうに思っています。

(質問) 稲垣さんと書かれなかった4票についてはどう思われますか。

(議長) 全員が書いていただければそれに越したことはないと思うので、それは嬉しいことですけども、やはり多様な意見があって当然だと思っていますので、いろんなお考えがあるというのはもう当然のことだというふうに思っています。ですけども、大多数の方に名前を書いていただいて議長にならせていただいたんで、48人全員、私も含めて三重県議会一丸となって取り組むような体制ではいきたいなというふうに思っています。

(質問) 芳野さんがいらっしゃらなかったんで、反発していなかったのかなと、同じ選挙区だからと思って聞いたら、いや午後1時からの開会だと勘違いしてたんでという話で、後で来たから、とりあえず正副議長選が終わって来たのかなと思って聞いたら、

そういうことではないらしいんですけど、それはそういうことなんですよね。会派で一応お話された。

(議長) 芳野君がそうやって、私もそのように聞きまして、そういうことなのかなというふうに思っています。

(質問) 小林さんは2人の方は別に、それはほぼ満票に近いんですけど、この票についてはどう感じられますか。

(副議長) 本当に多くの方にご協力いただいて、もう本当に感謝しかない、そういう気持ちでございます。

(質問) 副議長さん、所信表明でもおっしゃったんですけども、執行部側との関係性についてなんですけど、いわゆる議案を、県が出された議案を審議するお立場でもあると思うんですけども、議長として理想とする議会と執行部側との関係というのは、どういうふうな形を描いていらっしゃるのでしょうか。

(議長) 二元代表制ということで三重県議会が議会基本条例を作って、その理念を持ってこれまで取り組んできていますし、やはりこれからもそうあるべきだと思います。ですので、緊張感ある関係で政策議論ができたらなというふうに思っています。

(質問) 任期の考え方についてお尋ねしますが、昨日は、「基本的に」という、1年という前に「基本的に」という前置きがついていましたけども、特に意味合いはありませんか。

(議長) 特に意味はありません。

(質問) 副議長も念のため確認したいんですが、1年ということによろしいですか。

(副議長) もちろんです、はい。

(質問) 執行部との緊張関係と言っても、実際に今の知事は、相乗りで誕生した知事じゃないですか。そこのところってどのくらいの緊張感をもって監視機関としての役割というのできるんですか。そこは、俗語でいうところの是々非々での論点になっちゃうんですか。

(議長) もちろん是々非々でありますし、選挙でどなたを知事にするかっていうときに、我々も擁立した、応援したのは確かですけども、それで全権委任をしてやってもらってるわけでも全くありませんし、彼がやる政策によって、いいものはいいいし、駄目だったらしっかり議会としても物申していかなきゃいけないと思っていますので、これまでもそうしてきてると思いますけど、これからもその形はやっていきたいなと思います。

(質問) あえて憎まれ役買うけど、稲垣議長は一議員であったときに新型コロナウイルスの関係で結構議会で一般質問をされて、感染という言葉を使うなど、陽性ということで、かなりその当時の医療保健部長に迫られて、当局側も窮したところあるじゃないですか。あの形の、エキセントリックな突き方をすると、議長としてはまたお立場違うんで、その辺はどういうふうに切り分けられますか。

(議長) そのことで言うならば、あのときは陽性者のことを感染者という表現していることが妥当ではなかったの、陽性者と言うべきだということで、おそらく当局は陽性者という言い方にしていたと思うんですけど、そういう、当然おかしなことを言っているときには間違っていますよと正すのは、議会の役割、議員の役割だと思ってます。

(質問) 堂々巡りになるけど、厚労省そのものが感染者と発表してるからメディアもある程度感染者と書くしかなくて、陽性者という書き方もできるけど、一応こちらはお上発表だからそのお上のところの文言に従うと。もし文句があるなら厚労省に本来、一県議なのは構わないで挑むべきじゃないですか。

(議長) ちょっとその議論はよく分からない、なんとも言いようがないんですけども、基本的には私は、こういうふうにする方が正しいと思ったことについて、議会として議員として言うことは当然だと思ってますし、それを是々非々で、執行部が言っても正しいと思えば賛成ですし、間違っていれば間違っているんじゃないですかという指摘をする、当然だなというふうに思っています。

(質問) 議長って割と縛られる部分もあるので、そのところの発言っていうのは、一議員のときのように気軽には言えないじゃないですか。そこはもう議長という役がついた形で、思うところは全部言うという感じなんですか。

(議長) 昨日の質問でもあったと思うんですけども、例えば今、地方自治法の改正が国会で議論されていまして、私は3月に新政みえ代表として、それに撤回を求める意見書というものを県議会に出しました。会派としては、地方自治法改正は間違っているという判断をして、撤回するようにという意見書を出そうとしましたが、県議会においては否決をされ、その意見書を出すことができていません。ですので、例えば私が議長の立場として、あるいは三重県議会の意思としてどうだということと言うならば、出してないわけですので、そういった撤回を求めているわけではない。ただ私が一議員として、当時の新政みえ代表としては、地方自治法の改正は間違っていると思っているのでそのように主張する。そういうことかなというふうに思っています。

(質問) その部分は議長という理性がある程度働くと、それはそういうことで考えていいんですね。

(議長) 議長という職責はありますので、当然の役割かなというふうに思っています。

(質問) 二人は、もちろん党も選出区も違うわけですけど、何か共通点があったりとか、今まで一緒に取り組むことで、お互いの共通点は、ありますか。

(議長) 共通点は最初の選挙で落選していることですよね。落選からスタートして、2回目で通っているというのは共通点。それはいっぱい共通点あるんだろうと思うんですけども、どうですか。

(副議長) そうですね。選挙が一番分かりやすいんじゃないかなと思います。あと福祉系の総会なんかで議長と一緒にあったことがあって、考え方的にも同じような見解を持っていますので、その辺はこれからその部門においては、より三重県政において進めていかれるのかなというふうに思いますので、しっかり協力して取り組んでいきたいと思います。

(質問) ご親戚の福祉施設はまだやられてるんですか。要は施設として存続してるんですね社会福祉法人。

(副議長) しています。

(質問) これまで3年連続で議長が自民党で副議長が新政みえだったと思うんですけど、今回かわったのはどういう経緯なのか、県民へどう説明するのかということ伺いたいですけれども。

(議長) これまでもそうなんですけれども、ここ何年か、やっぱり第1会派と第2会派がしっかり話し合いをして、物事を決めていくということが大事だというスタンスに、私もそう思っていますし、自民党の多くの方もそのように考えていただいているんだろうと思っています。そういう中で、この役選についても話し合いで決めてきたという経緯もありますし、我々は議会としてはやっぱり一枚岩となって、知事と対峙していくというのは大事ですので、なかなか過去の歴史を見ると、やっぱり議長選のときに激しい争いをして、議会を二分してやっていたという時期もあるんですけれども、それが本当に県民のためにプラスになっているのかなという疑問を私は持っています。ですので、そういう意味ではそれを共感いただける方も多くて、その話し合いで、このところ正副議長の議論についても、それ以外の政策の議論もそうなんですけれども、第1会派と第2会派で常に反対とか賛成とかでぶつかるのではなくて、話し合いをするという状況をずっと作ってきてますので、今回もその延長線上での結果かなと思っていまして、どちらが議長、どちらが副議長が何年続いたというのではなくて、毎回話し合いで決めているということだと思います。

(質問) 先ほど任期の関係で基本的には1年、所信表明会でもおっしゃってました。そのあたり1年という考え方については、近年、慣例では1年で交代をしているケースが多いですけど、それに則ってというお考えなのか、それとも議長として他に何かお考えがあ

るのか、その辺りはいかがでしょうか。

(議長) 1年、これまでもそうですけれども、所信を申し上げて、それを実現するには1年というのは非常にいい期間かな、全力投球するのに、というふうに思っています。三重県議会議員は48名いるわけで、それだけの人材もいるわけですので、やっぱり皆がいろいろなものに関わるということは非常に大事かなと思っていますので、そういったことでこれまでの、何て言うんですかね、経験の蓄積というか、そういう形で1年で交代されているということは、やっぱり尊重すべきかなと思っています。

(質問) 他にありませんか。無ければこれで会見を終了します。

(事務局) それでは以上で就任記者会見を終わらせていただきます。

(議長) どうもありがとうございました。これからもどうぞよろしく願いいたします。

(副議長) どうもありがとうございました。

( 以 上 ) 14時43分 終了